

○6番 岩尾菜々美君

泉中学校2年、岩尾菜々美です。私は、まず公園の美化について質問します。

今、行橋市にある公園は雑草が多く生えており、公園があっても公園で遊ぶことができていないのが現状になっています。私が住んでいる近くの公園も、除草が多くて遊べていません。

そこで、除草作業をする回数を増やしたいと思っています。除草作業を増やし、人々が集まる場所をつくることで、行橋市に住んでいる方々の交流場所ができ、ウェルビーイングにつながっていくのではないかと思います。執行部はどのようにお考えでしょうか。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

岩尾議員の御質問にお答えします。

まず、ウェルビーイングですね。一言で言うなら幸せ、身体的な幸せ、経済的な幸せ、人とのつながりの面での幸せ、様々な面での、この幸せを考えていくという意味でも、この公園を維持していくということは、大変重要だと思っております。

まずですね行橋市の土木課で維持管理を行っている公園の数ですが、都市公園という公園があります。これは大きな公園で、その中でも大きさを、またあるんですけども、この都市公園が33あります。そしてそれよりも規模の小さい児童遊園が187ということで、合わせて220の公園がざっくりと存在するわけですが、この都市公園につきましては、まず毎年除草委託、これは、要はお金を幾らかお支払いして草刈りをしている、これが都市公園の現状であります。

一方の小規模な児童遊園はですね、主に児童を含めて周辺住民の方々に利用にさせていただくような地域密着型の公園ということもありまして、基本的には地域の皆さん方、美化活動や地域活動の一環として、従来から地元の方々に除草作業をお願いしております。

しかしながら、住民の方々の高齢化が進み除草といったものが、そもそも困難だと、かなり厳しくなっているといったような現状もございます。児童遊園は公園数も多いため、業者による除草委託を行えば多額の予算が必要となることから、今後、適切な維持管理を行ううえで、こういったことが非常に課題となってきております。以上でございます。

○前半議長 平原柑奈君

岩尾議員。

○6番 岩尾菜々美君

市内の公園数はとても多く、児童遊園の除草については、地元をお願いしているものの、除草作業の継続が困難である声が挙がるなど、今後の課題があることが分かりました。しかしながら、今のままでは状況が悪化するばかりだと思うのですが、いま行っている対策等があれば教えてください。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えします。そうなんです。おっしゃる通りで、いま少子高齢化が進む中で、またそれだけじゃないですが、地域コミュニティとよく言われますけれども、地域のつながりが希薄化してきている、薄くなってきているとよく言われています。

例えば皆さんも部活があったり習い事があったり、地域でいろんなイベントがあっても参加できないという現状もあると思うんですね。これは親御さんも同じじゃないかなと思います。そういった傾向の中です、やはりこの除草作業といったものがなかなか大変になってきている。

行橋市としましては、まず昨年から自走式の、要はモーターが付いていて自分でも進んでいくような電動の草刈り機をまず購入しまして、地域から要望がございましたら貸し出すようにしております。これだけでもかなり草刈りの労力が減って助かっているというような御意見をいただいております。

それからもう1点でございますが、これは農林水産省に登録されている安全性の高い除草剤を配布して除草対策を行っているのが現状でございます。ただ、これも例えば除草剤といったものもいろいろな見方もあるかと思いますが。安全性といったものは、しっかりと確認はされているとのことでございますけれども、その他にも、これは私自身も調べてみたんですけども、例えば天然由来のもの、マグネシウムとカルシウム、こういったものを土に混ぜて硬化、土をちょっと固くするようなことができるんですね。

これ実際に企業さんなんかが開発しています。海のものから抽出したものを使ってですね。そういったマグネシウムやカルシウムといったものを要は化学反応させることによって土を固くしていく。土が固くなると草が生えにくくなる。

例えば、これはもう実際にいろいろな公園で、全国で使われています。草が生えないということと、ただ、自然由来のもので、アスファルトを張るようなものではないので、水もしっかりと吸収される、そしてアスファルトよりも熱くならない、そういったところでも環境負荷といったものが非常に少ないということで、今後、議員から今回御提案いただきましたので、草を刈るというだけではなくて、どのようにしたら環境

に負荷をかけずに草を生やさないようにできるか、そういった視点で、ちょっと実験的に行橋市内の一つ、あるいは複数の公園で、こういった自然由来の土を硬化させるものといったものを試してみたいなと思っております。所管にも、そのように改めて説明して、実施したいと思っております。以上です。

○前半議長 平原柑奈君

岩尾議員。

○6番 岩尾菜々美君

ありがとうございました。次の質問に移ります。

次に、タブレットのキーボードの不具合について質問します。現在、小・中学校に配付されているタブレットについて、状況をお伝えさせていただきます。

タブレットの画面の破損や操作ボタン等の破損につきましては、市教育委員会の素早い対応で、故障を直していただいているところだと思います。ただ、タブレットのキーワードにつきましては、大半の生徒が、ボタンの操作がうまくいかない、使えない、変換がうまくいかない、などの状況があります。市のＩＣＴにかけられる予算は決まっていることだとは思いますが、今の状況ですと、学校内でタイピングコンテストなどができず、困っています。

そこで質問ですが、タブレットキーボードを含むＩＣＴ機器が故障した場合の修繕にかかる年間予算はどのくらいですか。それは、十分に足りていますか。執行部はどのようにお考えでしょうか。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

まず、岩尾議員がしっかりタブレットを活用していただいていることについて、大変うれしく感じたところであります。では、御質問にお答えします。

ＩＣＴ機器が故障した場合、修繕用の年間予算として、小学校分が２４０万円、中学校分が１００万円となっています。議員が言われるような、キーボードはもちろんですが、タブレット本体や教室の天井にあるプロジェクター、また、先生方が仕事で使うプリンターなども、この予算を使って修理をしています。

しかし、これらのＩＣＴ機器については、一人１台端末の環境になってから、活用の場面が増えたことや、使用期間が長くなり劣化が進んでいることから、故障の可能性も高くなってきています。昨年度も、先ほど回答しました予算では足りなかったために、年度の途中で予算を増やして、故障への対応を行ったところであります。以上です。

○前半議長 平原柑奈君

岩尾議員。

○6番 岩尾菜々美君

しっかりと予算を確保し、対応してくれていることが分かりました。でも、故障や不具合があれば、先ほど言ったようにキーワードが正常に機能しない場合があり、活動に支障が出ることもあります。このことについて、どのような解決策がありますか。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

岩尾議員が言われますように、故障や不具合があると、せっかく I C T機器を活用した学習に取り組もうとしても、それができなくなってしまいます。教育委員会では、児童・生徒の皆さんの学びをとめないことを最優先に考え、まずは、故障や不具合が起こらないように、計画的に機器の更新を行っております。しかし、今回の御指摘のように、故障や不具合が起こる場合もありますので、それらの機器については、できる限り速やかに修理を行ってまいります。

このように、教育委員会は、教育現場の I C T機器の環境整備に最善を尽くしていきますので、議員をはじめ児童・生徒の皆さんには、タブレット端末などを、いつでも、どこでも、積極的に活用していく中で、電子機器であるという意識も持っていただき、大切に使用いただければと思います。以上であります。

○前半議長 平原柑奈君

岩尾議員。

○6番 岩尾菜々美君

以上で質問を終わります。(終了ブザー) ありがとうございました。